

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 109 号	氏名	村上 友則
学位審査委員	主査 兼松 隆之 副査 下川 功 副査 江口 勝美		
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価</p> <p>本研究は肝細胞癌（HCC）症例に対し、現在臨床的に汎用されている肝動脈化学塞栓術（TACE）と経皮的ラジオ波焼灼療法（RFA）の治療成績を比較し、各々の治療法の局所再発に関わる因子を明らかにするものであり、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2. 研究手法に関する評価</p> <p>同一期間に施行したTACEとRFAを多数のHCC症例を対象とした臨床研究で、いくつかの条件下での分析結果を種々の統計学的解析で検討したものであり、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3. 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、腫瘍径ならびに存在部位を勘案した上で、治療法を選択すべきであることを明らかにした。この結果は、今後のHCCの治療法の選択と臨床研究に大きな示唆を与えるものである。</p>			
<p>以上のように、本論文はHCCの臨床研究に貢献するところ大であり、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			